

自然に戻るものを見つけよう

季節：春 - 秋 時間：1 ~ 3ヶ月

土の中の小さな生き物の働きを学び、その大切さを知ろう。

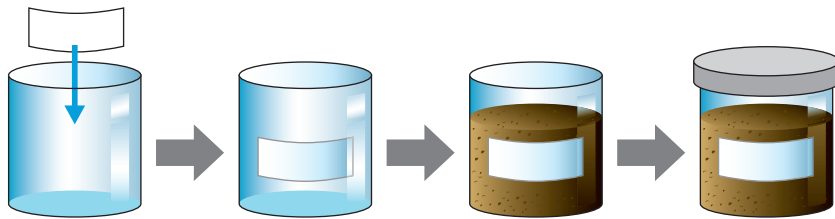
自然に戻るもの、返らないものを見つけ、私たちの暮らしについて考えよう。

準備と注意事項

- 用意するもの：ワークシート、筆記用具、ビニール袋、スコップ、広口びん、ピンセット、紙（ろ紙、コーヒーフィルター、紙タオルなど）
- 服装：動きやすく、汚れても良い服装
- 注意事項：土を取る前にはその土地の持ち主の許しをもらうこと。1 ~ 3ヶ月くらいの観察になる。根気強く続けよう。

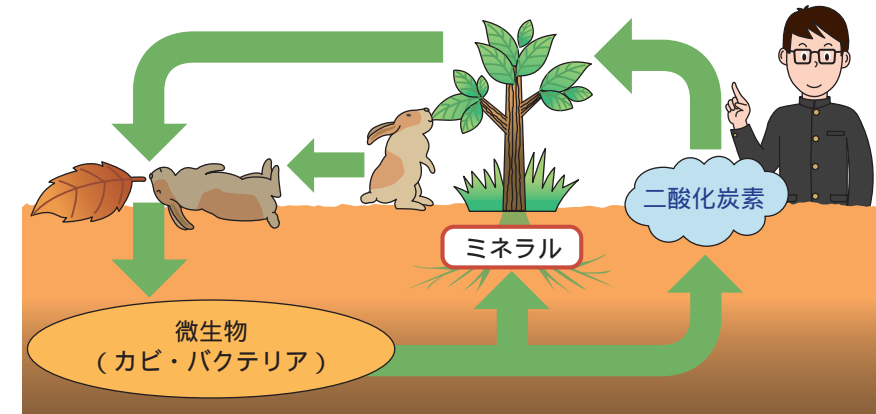
進め方

1. 調べる場所を決める（畑、花だんなど）
2. 決めた場所に行って、まわりや土の様子をワークシートに記録する。
3. スコップで土を掘り、ビニール袋に入れて持ち帰る。
4. 紙やビニールを適当な大きさに切り、水で濡らして広口びんの内側にはり付ける。
5. それらが埋まる程度まで土を入れ、容器のフタを軽く乗せる（密閉しない）。
6. 室内に置いておき、土が乾かないように、ときどき水を補給する。
7. 紙とビニールの様子をときどき観察して記録する。
8. 資料を読み、観察の結果から考えられることをまとめる。



資料

土の中にはカビの仲間やバクテリア（微生物）がたくさん住んでいます。微生物は目に見えないほど小さな生き物ですが、とても大切な働きをしています。それは、枯れた植物、動物の死体やふんなどのリサイクルです。微生物はそれらを分解して食べ、二酸化炭素やミネラルを出します。そして、その二酸化炭素やミネラルを吸って植物が育ち、その植物を食べて動物が育つのです。つまり、微生物がいなければ、枯れた植物、動物の死体やふんなどは自然に戻ることはできません。また、植物や動物、もちろん私たち人間も生きてゆくことができないのです。



このように、微生物はいろいろなものを自然に戻し、リサイクルする働きをしていますが、中には微生物が分解できないものもあります。

この実験では、土に紙（植物のせんい質）とビニールを埋めて、その後の様子を比べてみますが、その他にもいろいろなものを埋めて観察してみると良いでしょう。

自然に返るものを見つけよう

日時	年 月 日(曜日)	グループ	
時間	時 分~ 時 分	氏名	
天気		特記	

1. 土を採取した場所の記録

地点	
場所のようす	
土のようす	
その他、 気づいたこと	

2. 観察の結果を記録しよう

年月日	紙	ビニール

3. 観察の結果から考えられることをまとめてみましょう。

--